



吉原 美智恵 議員

自主防災組織の充実は

町長

防災監を中心に進める



年に一回の防災訓練

〔吉原〕 近年、全国各地で災害が相次ぎ、本町でも例外ではない。防災は、自助・共助・公助と言われるが、大災害が起きた時、救助隊がすぐに来ることはむずかしい。まず自助・共助が特に大切であり、地域を守る自主防災組織が共助の要として機能することは重要である。

その育成や、充実させる手立ては。

〔町長〕 災害による被害を少なくするためには、自助・共助が大切だと認識している。今後、防災監を中心に、各自主防災組織への出前講座や、防災士の自主防災組織の代表を集めた研修会などを進めていく。

〔吉原〕 43集落にまだ自主防災組織ができていないが、その育成と、いまある防災組織の生きた訓練や地域に合った危険の認識など、課題の解決は。

〔町長〕 専門的な知識や経験を有した防災監が実情を把握し、指導していく。

文化財室の事務移管を問う

町長

観光活用に取り組み

〔吉原〕 文化財保護に関する事務を町長部局（観光課）に移管する意図は。

学校教育イベントや学校教育、公民館との連携がこれまで通りに対応できるのか。

また、観光活用への幅が広がることは理解するが、開発行政と文化財保護との中立性は保てるのか。

〔町長〕 移管の意図は文化財の保存・調査を行いながら、観光活用に効果的な取り組みを行っていくためである。

教育委員会との連携や中立性については、文化財室ごと移管するもので、大きく変わることはない。

〔教育長〕 文化財保護

審議委員会の委員定数を2人増とし、町外の専門家を加え、中立性は確保する。

〔吉原〕 法改正にともない、県についていち早く取り入れるわけだ

が、埋蔵文化財の発掘調査や、保存にかかわる人材や予算の確保は大丈夫なのか。

〔町長〕 文化財保護の予算を減らす考えはない。



保存と活用が問われる文化財（所子重伝建）